

緒明山 OAKIYAMA-TSUSHIN 通信 9



昭和 19 年 12 月海軍予備学生所感集（表紙）

発行日
令和 4 年（2022 年）6 月 10 日
改訂
令和 4 年（2022 年）7 月 5 日

発行者
横須賀市立中央図書館郷土資料室
住所 神奈川県横須賀市上町 1-61
電話 046-822-2077

本誌は印刷発行していません。次の図書館あるいは市史編さん事業のホームページからダウンロードしてください。カラーでご覧いただけます。
<https://www.yokosuka-lib.jp/contents/archive/>
<https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/8150/shishi/shishi1-top.html>

《 資料紹介 》

「海軍予備学生所感集」について

郷土資料室 佐藤明生

令和 3 年／2021 年度寄贈資料の中から「海軍予備学生所感集」（昭和 19 年 12 月）を紹介する。

この所感集は、昭和 19 年当時海軍航海学校の教官を務めていた平瀬親栄氏が所蔵していたもので、平瀬氏が平成 8 年に鹿児島で亡くなった後、縁者である満尾哲也氏が保管していた。

本所感集の紹介にあたり、海軍予備学生に関する記述は、全て小池猪一著『海軍豫備学生・生徒』（株式会社国書刊行会 1986 年発行）をテキストとする。

* * *

1 海軍予備学生について

昭和 18 年（1943 年）12 月 10 日、“徴兵猶予停止”により学徒出陣といわれた臨時徴兵があった。これにより 17,900 人が海軍二等水兵を命ぜられ、武山・大竹・相浦・舞鶴の四つの海兵団に入隊し、50 日間の新兵教育が行われた。その終盤の 1 月下旬には適性検査と学力試験が実施され、これに合格した学生 3,355 人が 2 月 8 日付で第 4 期兵科予備学生として武山海兵団教育部学生隊に入隊した。資格は少尉候補生の下、准士官の上に位置付けられた。ちなみにこの時入隊した学生の出身校ベスト 10 は、東大・慶大・早大・京大・中央大・東北大・日大・明大・東京商大・法政大である。

武山海兵団では 5 か月半の基礎教程があり、それ

を終えた予備学生は、7 月 15 日に艦艇・対空・要務・電測・兵器装備・陸戦などに分かれて術科教程に進む。この所感集は、艦艇を専修するために横須賀海軍航海学校に入った学生たちが、術科教程を終えて卒業した昭和 19 年 12 月 10 日から海軍士官＝少尉に任官され第一線部隊に配属される 12 月 25 日までの間に記したものである（12 月 15 日の日付や「明日は新任務に赴く」との記述あり）。

2 所感集について

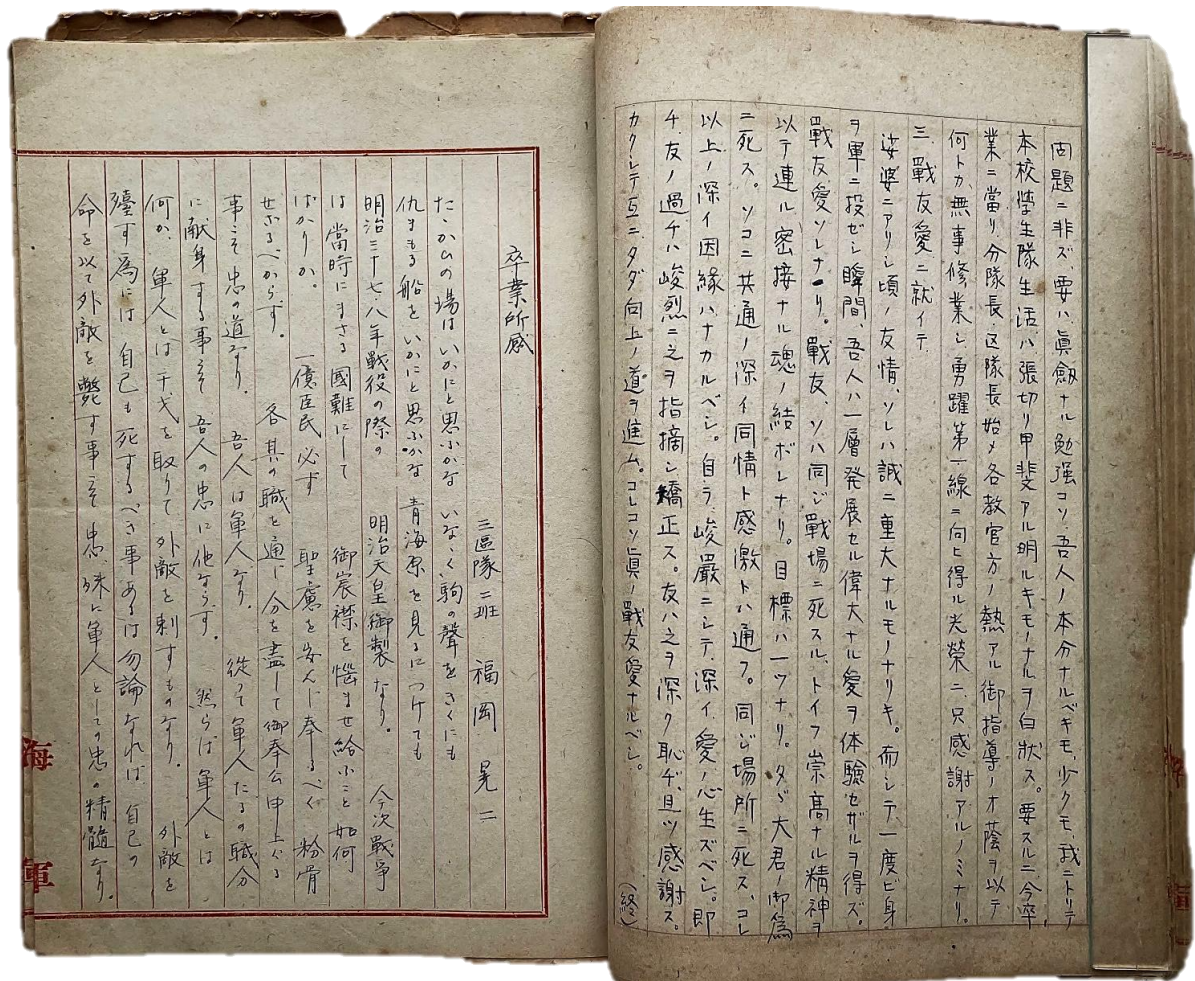
所感集は 2 冊あり、海軍罫紙を使用した第二分隊第三区隊第一班から第四班 44 人分、糸綴じノートをばらした紙片に記した第二分隊第四区隊第一班から第四班 45 人分、計 89 人分におよぶ。

所感の体裁は、縦書き、漢字は旧字体、仮名はカタカナが大半を占める（ひらがな使用 2 人）。全体に丁寧な筆致で、達筆といえるものも散見する。

所感の内容は、教官から指示された「1、忠節」、「2、予備学生生活における所感－（イ）予備学生としての自覚、（ロ）学生教育への批判、（ハ）教官への批判」、「3、戦友愛」についてである。全体に忠節を尽くす精神で貫かれ概念的で、時間や場所、人物の名前などの記述が少ない。以下、教官から指示された項目について掻い摘んで紹介するが、その前に個別具体的な記述を拾い出してみたい。

3 具体的な記述

教官等の氏名については、武山海兵団での基礎教程における学生隊教育部長として「牟田口大佐」、第四区隊の教官として「右田教官」、「原田教官」、「平瀬教官」の 3 人が登場する。このうち平瀬教官が区隊長であり、鹿児島出身の九州男児で熱血漢、



資料1 第四期兵科予備学生（艦艇班）・第二分隊三区隊の卒業所感集

所感

三区隊二班一番 岡田英雄

忠節は軍人の本分なり。純忠至誠身を以て皇国に殉ずる軍人の大道は炳乎として勅諭に明示せられあり。吾人聖代に生を享け、忠節の道を最も力強く実践せんとする機を得たり。今にして、昨年学徒出陣に当り感激の極に達し、宮城の大御前にひれ伏しし時を思う。皇謨三千年、真の日本臣民は忠と生死を共にせり。忠は日本人の血に魂に脈々と受け継がれたり。「臣民君に忠に以て父志を継ぐ。君臣一体忠孝一致なるはただ我国のみ然りとす」とは士規七則に見ゆる言なり。吾人は忠に生き忠に死せる先人の魂と共に、忠孝一本の大道を驀らに進みつつあり。何の喜びか之に如かん。今眼前に与えられんとする崇高なる任務を完遂し、君恩の万一に報い奉らんと期す。

辿るべき道明らなり日の本の

すめらみ国に生れしうれしき

予備学生は皇国護持の天命を拝し、危急に馳せ参じたる者、当局の期待絶大にして将来帝国海軍の推進力たらざるべからず。之を自覚し、事海軍に關して知識皆無なる我身を省み、勉学の期間一年に充たざるを思う時、努力渾身にして足らざるを思うべきなり。然るに吾人は予備学生生活中、余りにも無価値なる批判の声を屢耳にせり。余りにも恥すべき行為を屢目にせり。空論喋喋として実践力なきは世の書生の通弊なりき。然れども予備学生は、たとえその前身は如何なりとも、今は光榮ある皇国護持の重任を有する将校学生なり。純真なるべし。実力内に充実せる寡黙断行の士たるべし。

学生隊の教育に關し、余は感謝の念を以て顧みるのみ。現時局下、現在以上の施設の完備を求むるを得ず。隊長はじめ諸教官の熱心なる御指導を受け得たる吾人は幸なりき。完備せる機密図書類を借りる手續を簡にし、勉学の機を十分与えられたる事に關し最も感謝す。

航海学校の教程を了えんとするに當り、分隊長、区隊長の御熱心なる御指導に厚く感謝を捧ぐ。武山に於ける基礎教程は実に苛烈峻厳そのものにして吾人の伸びんとする力は、圧えに圧えられたる感ありき。航校に來りてより分隊長、区隊長は寛容大度にして、信を吾人の腹中に置かれたり。吾人はその信に背かざる如く努力し來れり。吾人もとより恥を知る。自省以て責めらるるを最上の苦痛となす。吾人はよき御指導の下に、実力涵養に猛進するを得たり。然れども、吾人の中に時折、分隊長、区隊長の寛容に忤れ、そのご期待に反する行動ありし者を出したるを遺憾とす。

真の戦友愛は戦場に於てのみ発露す、と言ふ者あれども、吾人の生活を深省し、吾人の生活は直に戦場につながり、吾人の日常は直に戦斗動作なるを思ふ時、友情即ち戦友愛ならざるべからずと断じ得。故に吾人の友情は、娑婆に於けるそれと異り、生死を共にし互に骨を拾うべき、より固き絆に結ばれたるものなり。されど、未だ吾人の間に、切磋琢磨の実挙がらず。区隊長が常に説かれし戦友愛の神髓發揮せられざるを遺憾とす。

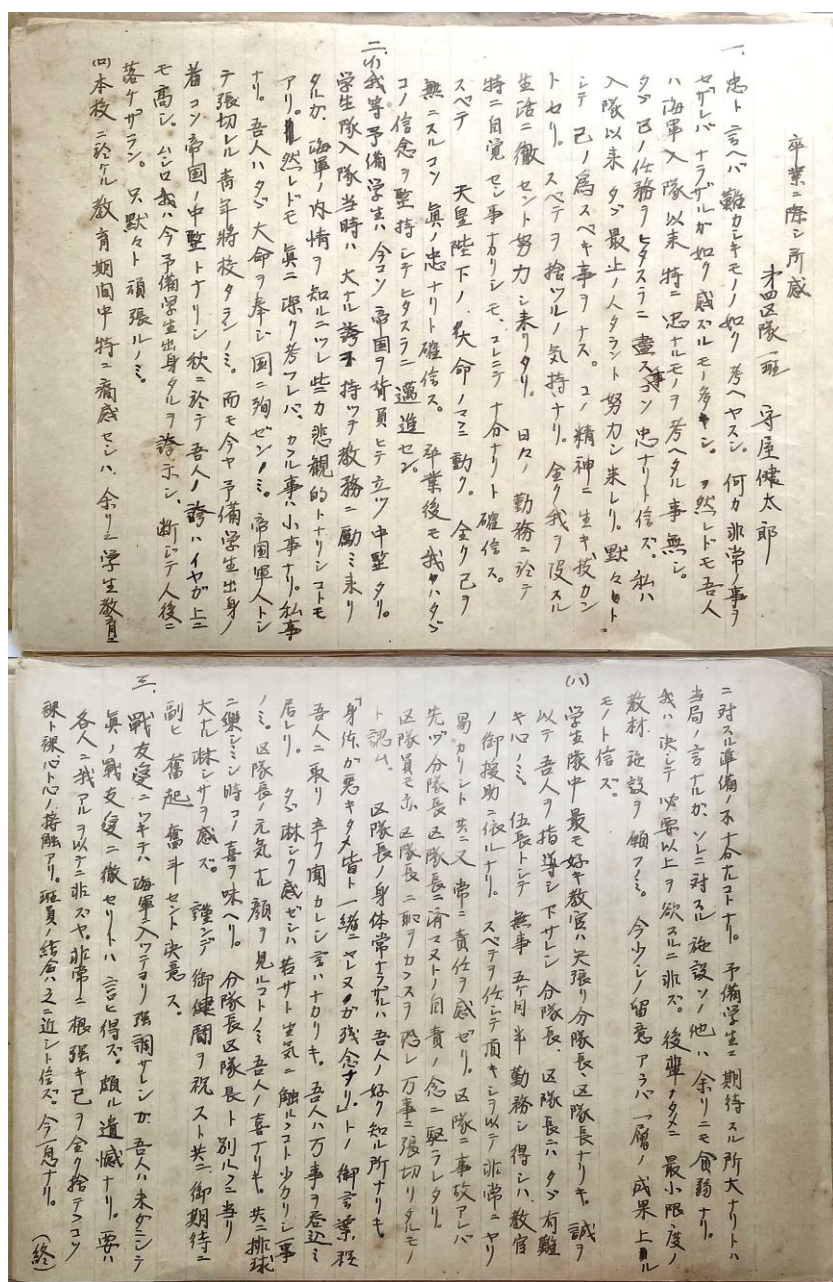
(終)

資料2 第四期兵科予備学生（艦艇班・第二分隊三区隊）の卒業所感の一例（新字体・ひらがな表記に変換）

温厚、良き上官と評し、学生からの信頼がとても厚かったようだ。ところが、身体の不調やご病身を案ずる記述が第三区隊、第四区隊に限らず認められ、今期で航海学校の教官の任務を終え九州に転任(大分県の佐伯防備隊)することを伝えている。

学生の進路については、「特攻隊に専心し…、筑紫に参り」、「潜水艦に行く」の二人の学生に限る。

訓練の合間には水泳や棒倒し、騎馬戦などの各種競技が行われているが、「競技総合成績で四区隊が優勝」したようで、こうした競技会の後には分隊長と区隊長からビールの差し入れがあり、日頃の慰労と共に親睦を図っていたことがわかる。



資料3 第四期兵科予備学生(艦艇班・第二分隊四区隊)の卒業所感の一例

4 「忠節」について

忠節は、いわゆる軍人勅諭の訓戒の一つである「軍人は忠節を尽くすを本分とすべし」に基づき、生死の超越を第一とし、その上で任務を完遂することこそ忠とする。また、「自己を滅却して唯ひたすらに陛下の御為に尽くす。孝を犠牲にして忠のために死し、悠久の大義に生くるを得ば之即ち孝となる」の言葉に代表されるように、忠孝一本といえども忠を上位概念とし、死ぬまで任務にまい進することこそ親に対する孝と、忠孝の関係を整理している。

5 「予備学生生活における所感」について

航海学校における教育への批判では、乗艦実習が

少ないこと、設備・機材が乏しいことなどを記す学生が多い(資料3)。その一方で、現在以上を求めるべきではないと主張する学生もいる(資料2)。前者は今後も続く予備学生教育を想定し、後輩のために設備の充実を訴えているが、後者は「資材の不足、要望は理想論に過ぎず」とみなすなど、「期間、施設等無理あれどこれを克服し突破すべき」と説く。いずれにしても往時の士官候補生が短期間に急場しのぎで養成されていた実態を証明している。

6 「戦友愛」について

多くの学生は戦友愛の自覚はないものの、娑婆(しゃば)の友情とは異なり、戦場において生死を共にする時に芽生えるものと記す。頻出する表現に「生死を共にし互いに骨を拾うべきより固き絆に結ばれたるもの」がある。そのほか「護国の盾となるべき共通せる堅き信念の下に生ずる公的な精神」と定義する学生もいる。

その一方で、戦友愛が戦場で感得するものであれば、「真の愛に非ずして慕心に過ぎず。愛は一朝一夕に得られるものにあらざ」と批判する。とはいえ、その学生も「我」を捨つる、この一言の修養に努むべしと結論する。

7 訓練の内容について

最後に、海軍航海学校における術科教程の内容を補足する。所感集と共に寄贈された「学生作業簿」(複製)から主要教科を抽出してみた(資料4)。

実施回数が少ないと所感に度々登場する乗艦実習は8回で、その他の防空、天測等の訓練・実習が34回、辻堂への3日間の演習、考査や口頭試問18回などで連日埋め尽くされている。その合間に水泳や棒倒し、騎馬戦等の競技会が10回組み込まれ、士気高揚を図る毎月8日の大詔奉戴日と神嘗祭・新嘗祭・明治節も重要な儀式として催された。

* * *

本資料は、冒頭で触れたとおり戦地に向かう海軍予備学生の卒業所感で、どの所感に接しても軍人としての体裁が保たれている。どこかに本音の吐露はないかと探すが毅然とした文章で貫かれている。当初、教官に提出するためと感じたが、むしろ忠節を尽くす精神が各学生に形成されており、卒業所感という公的な場面では十分に発揮できていたと考えるべきであろう。所感を記すことで忠節を最終確認させることが教官の狙いでもあるが、学生一人一人の文章は読まずとも、自己を無にして護国のために

尽くす内容に統一されていることを教官は予測していたに違いない。

戦友愛については、予備学生教育1年足らずではその境地にはいたらないものの、打算や利害、生死を超越した自己の犠牲こそ戦友愛の根源であることを頭の中では理解している。教官としては戦場における忠節の実践のために戦友愛の醸成を重視したわけだが、その概念形成だけでも成功したことは十分な教育の実践とみなして良いだろう。

こうして忠節の精神を叩き込まれた第4期兵科予備学生は卒業後、海軍士官(少尉)に任官され戦地に向かうことになる。年が明けて1月7日には南西諸島で戦死する方もおり、総員が死と直面する状況に置かれた。本所感集89人のうち4人は前掲『海軍豫備学生・生徒』の戦没者名簿にその名を確認することができ、迫りつつある終戦と新たな祖国を知ることなく命を落としていった。

ここで紹介した所感集については、令和4年4月29日から同年5月25日まで開催した「郷土資料室新発見・新着資料展」に展示した。

参考・引用文献

小池猪一 1986『海軍豫備学生・生徒』全3巻 株式会社国書刊行会

資料4 海軍航海学校における主要教科(第三区隊第二班・班長岡田英雄の「学生作業簿」から抜粋)

7月17日、入校式	9月13～15日、防空訓練	10月25日、要務・運用考査
7月21日、防空訓練	9月16日、隊長転勤、有志訓練開始	10月26日、黎明星測
7月22日、レントゲン撮影	9月17日、五十鈴見学	10月27日、乗艦実習
7月23日、普通学考査	9月19日、天測実習(太陽測)	10月28日、航法考査
7月27～29日、防空訓練	9月19・20日、第二警戒配備	10月30日、信号考査
8月4日、防毒面装着訓練、舞謡見学	9月22日、天測実習(黎明星測)	11月1日、要務考査
8月4・5日、第二警戒配備	9月22日、秋季皇霊祭、相撲競技	11月3日、明治節、陸戦機銃考査、 隊長講和
8月6日、航法考査	9月25日、応急実習	11月5日、口頭試問
8月8日、大詔奉戴式	9月26・28日、見張訓練	11月6日、薄暮星測
8月12日、海洋学潮汐考査、被服点検	9月29日、応急実習、防空基本訓練	11月8日、大詔奉戴日、駢足競技
8月14日、海軍文庫見学	9月30日、天文航法、操舵装置考査	11月13日、乗艦実習
8月16～18日、防空訓練	10月1日、冬季日課施行	11月15日、自差修正実習
8月18日、乗艦実習	10月5～7日、辻堂演習	11月17日、防毒考査
8月20日、水泳競技	10月8日、大詔奉戴式	11月18日、棒倒し、映画見学
8月21日、航海兵器見学	10月9日、見張映画	11月21日、黎明星測
8月24日、乗艦実習	10月10日、短艇実習、銃器手入、 星測	11月22日、通信考査、新嘗祭遙拝式
8月26日、地文航法考査	10月13日、艦運見張考査	11月23日、逗子行軍
9月1日、乗艦実習	10月14日、機銃、隊長訓話	11月28日、乗艦実習
9月2日、遠泳	10月15日、航海講和	11月29日、軍容査閲、雑問考査
9月3日、潜水艦見学	10月16日、防空訓練	12月2日、短艇競技
9月5日、血液型検査	10月17日、神嘗祭遙拝式、手旗競技	12月4日、防火実習(於浦風)
9月6日、警戒隊立付	10月23日、靖国神社例祭臨時大祭遙 拝式、武道競技	12月6日、雑問考査
9月7日、乗艦実習	10月24日、海上衝突予防法考査、 防空訓練	12月8日、大詔奉戴日、 乗艦実習、同研究会
9月8日、大詔奉戴式		12月9日、早朝訓練開始、防火実習
9月9日、航海兵器考査、 棒倒し・騎馬戦		

《 郷土史を学ぶ 》

郷土資料の魅力 ―地誌と地方文書―

郷土資料室 谷合 伸介

地域の歴史をたどるとき、まず手にするのは自治体史や郷土史をテーマに執筆された様々な参考図書である。それらから、郷土史の概要を知ることができ、その研究成果も学ぶことができる。郷土史を学ぶうえで、欠かせない資料といってよい。一方で、そうした参考図書とともに、各時代の歴史資料から地域の情報を得ていくことも、郷土史を学ぶ醍醐味の一つである。今回は、当館でも閲覧することができる地誌と地方文書を例にその学びの魅力を紹介したい。

地誌とは、地域の自然・歴史・文化などの特徴や現況を記し、その地域的な特性をまとめたものである。三浦半島の代表的な地誌としては、江戸時代後期にまとめられた『三浦古尋録』や『新編相模国風土記稿』などが挙げられる。一方、地方文書とは、江戸時代の村で作成された文書類などの総称をさす。例えば、村の名主をつとめていたお宅に残されている古文書類などは、これにあたる。では、こうした資料から具体的にどのようなことが調べられるのだろうか。江戸時代の横須賀の漁業を例に見ていこう。

三浦半島は、東京湾と相模湾に面しており、この地で暮らす人々は、いつの時代も海とともに暮らしてきたと言っても過言ではない。そのため、横須賀に関する地誌や地方文書には、漁業に関する記述が数多く残されている。

まず、地誌の『新編相模国風土記稿』を見ていこう。ここからは、各地域特産の海産物がどのようなものだったのかが見えてくる。例えば、海鹿島^{あしかじま}周辺で獲られたヒジキは、「浦賀鹿尾菜」と呼ばれ、特産品の一つであった。こうした地域名を冠した海産物は他にもあり、走水村のタコは、「章魚此地海中ニ産スルヲ美トス」、「走水村ノ海中最多シ」とされたことから、「三浦蛸」といわれた。また、深田村のサザエは、他の地域とは異なり、殻に尖角がない

〈江戸時代の横須賀の主な海産物〉

海産物	場所
塩	浦郷村
	林村
ヒジキ	西浦賀分郷
	横須賀村
ワカメ	横須賀村
カジメ	横須賀村
モズク	横須賀村
サザエ	深田村
タコ	走水村
スバシリ	東浦賀村
	久里浜村
アワビ	久里浜村
	長井村
ヒシコ	長沢村
アシカ	西浦賀分郷（海鹿島）

（『新編相模国風土記稿』を基に作成）

ことから、俗に「角ナシ栄螺」と呼ばれた。

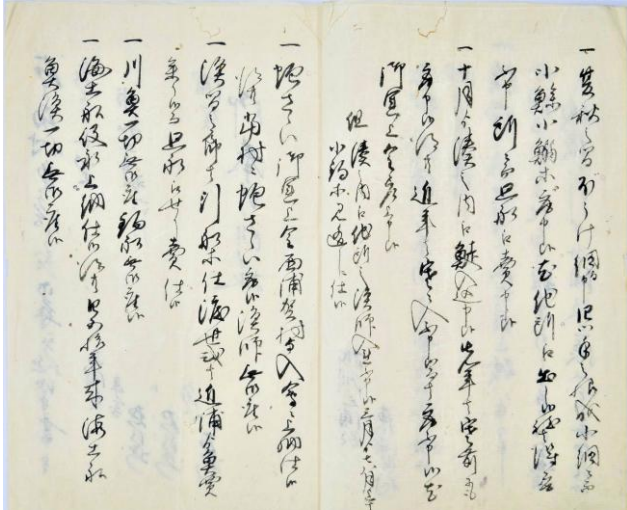
一方、海藻類で評判だったのが横須賀村のヒジキ・ワカメ・カジメ・モズクなどで、この地で獲れたものは美味とされた。その後の明治～昭和

和初期にかけても、海藻類はこの地域の名物であった。大正4年(1915)発行の『横須賀案内記』では、ヒジキについて「其角短く、質軟かに、味美なるを以つて、軍港名物として其名四方に喧伝せり」とあり、昭和9年(1934)発行の『軍港 横須賀案内』という観光パンフレットにも「特産品としてワカメ、ヒジキ、角無サザエ等あり」とあり、深田のサザエとともに地域の特産品とされていた。

また、漁業とまでは言えないが、アシカも捕獲されていた。海鹿島は、冬の時期にアシカが数多くやって来て体を休めていたことから、その島名がついたという。しかし、「享保以後、浦賀奉行ヨリ同心等ニ命ジ、鉄砲ヲモテ打シム、此獣冬月ハ頗多ク、寒中ハ其肉殊ニ美ナリト云」とあり、浦賀に奉行所が置かれて以後、肉の味の評判もあり、海鹿島のアシカは同心らにより、鉄砲で捕獲されるようになっていったようである。

こうした様々な横須賀の海産物のなかでも、特に注目すべきは、スバシリ（ボラの幼魚）である。毎年冬の時期になると、スバシリの群れが浦賀や久里

「魚漁書上帳」



浜の湊の中まで入り込んでくるため、これらの地域で漁獲していた。14代将軍徳川家茂は上洛のため、浦賀に入った際、この光景を見て、たいそう気に入ったという。東浦賀村では、運上金の上納と引き替えにスバシリ漁の権利が認められていた。その詳細は、『新編相模国風土記稿』に記されており、それによると、①幅60間（約109m）・長さ120間（約218m）の網を水底に設置し、小船数百艘がこれを囲み、網を上げると数万匹が獲れ、収入を得られたこと、②この漁に加わっていた者は72人おり、漁の日には近隣の住民も手伝いにやってきたこと、③税銭を上納していたこと、などが記されている。また、ここまで詳細ではないが、『三浦古尋録』にも、同様に同村のスバシリ漁の状況が記されている。

一方、地方文書には、さらに多くのスバシリ漁に関する史料が残されている。東浦賀村の名主をつとめた石井家に伝来した「石井三郎兵衛家文書」（当館蔵）には、その関連資料が残されているが、ここでは明和2年（1765）の「魚漁書上帳」（以下、書上帳と略す）に注目する。この書上帳は、漁況に関する浦賀奉行所からのお尋ねにつき、同村がその概要をまとめ提出したものである。このなかで、スバシリ漁は、「十月方湊之内江鮭入込申候、先年者寒前にも取申候得共、近年者寒ニ入不申候而者取不申候、尤御運上金差上申候」と記されている。10月頃から湊にスバシリが入り始めるため、以前は寒くなる前から漁を行っていたが、近年は寒の入りになってから獲るようになったこと、尤もそうなっても運上金については支払っていることなどが書かれてい

る。さらに、書上帳では、同村で行われたその他の漁に関する記述もみることができる。当然のことであるが、スバシリ漁が行われた冬以外の時期にも何らかの稼ぎがなければ、村人の暮らしは成り立たない。特に東浦賀村はわずかな耕地しかなく、漁の稼ぎで生活しているものが多かった。しかし、『三浦古尋録』や『新編相模国風土記稿』には、同村におけるスバシリ漁以外の漁の情報は抜け落ちており、その状況についてはわからない。

では、一体どのような漁が行われていたのだろうか。書上帳によると、まず、4月から6月頃までの間は、「八手」という小網でメバル・タナゴ・雑魚を獲り、夏から秋にかけては、「ぼうけ網」（棒受網）という小網で小鰯・小鰯などを獲り、これを廻船に売っていた。その後、冬になり、スバシリ漁が始まるのである。また、その他の魚や貝類などの漁獲についての記載もあり、アワビやサザエを獲る漁師はいなかったこと、漁の合間は、曳船稼ぎ（湊に入る廻船を船で引いて湊の出入りを助ける仕事）をしていたこと、川魚を獲る釣舟はなかったこと、ここ40～50年の間は、^{あま}海士船の漁は一切行われていないことなどが記されている。

以上、簡単ではあるが、東浦賀村を例に、地誌と地方文書から、江戸時代の漁業の一端を見てきた。『新編相模国風土記稿』などの地誌には、三浦郡の各村々の特色などが書かれており、特産の海産物などを幅広く調べるためには有効な資料である。しかしながら、各村の漁の現況やその成り立ちの詳細を深く知ることは難しい。東浦賀村の例でも、特筆すべきスバシリ漁については詳細に記されているが、それ以外の漁に関する記述は確認することはできなかった。それを調べるためには、やはり各村に伝わってきた地方文書を見ていく必要がある。地域の特徴を幅広く知りたい時には地誌を、各村の個別の情報を詳しく知りたい時には地方文書を、目的に合わせ利用していくとよいだろう。『三浦古尋録』・『新編相模国風土記稿』及び「石井三郎兵衛家文書」は、くずし字を翻刻した刊本が出されており、いずれも当館で閲覧することができる。地誌と地方文書それぞれの特徴を踏まえながら、郷土史の学びを新たに始めてみてはいかがだろうか。

郷土資料室事業概要（令和3年度）

1 レファレンス・サービス件数

- 問い合わせ件数 58 件
- 資料利用（掲載・放送・出陳等）許可件数 48 件
- 資料貸出・閲覧件数 17 件
- 資料複製（デジタル化）件数 108 件

2 関連団体の研修会等参加実績

- 7 月 16 日、全史料協関東部会研究会「公文書館におけるデジタルアーカイブの構築と運用」（オンライン開催）〔谷合・宮城・藤川〕
- 11 月 12 日、神奈川県歴史資料取扱機関連絡協議会講演会 鈴木紀三雄「埼玉県地域資料保存活用連絡協議会の活動について」（オンライン開催）〔谷合・宮城〕
- ※ 令和3年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス COVID-19 の蔓延に伴い、本市が加盟する神奈川県歴史資料取扱機関連絡協議会関連の総会・講演会・研修会などがオンライン開催となった。

3 依頼業務等

- 6 月 4 日、市民大学研究コース・食と農の博物塾 第2回「三浦半島の農家のくらしと歴史」講師〔佐藤〕
- 6 月 15・22・29 日、西コミュニティセンター講座「近代の歴史遺産の活用」講師〔佐藤〕
- 2 月 27 日、横須賀市自然・人文博物館よこすか歴史物語2「横須賀の考古学最前線 第1部 陥し穴状土坑群の調査をめぐって」講師〔佐藤〕
- 3 月 2・9 日、追浜コミュニティセンター生涯現役講座・追浜いきいき学級「鎌倉時代の三浦氏 ①・②」講師〔谷合〕
- まなびかんニュース 2021 年 10～12 月号、横須賀と海 第 30～32 回「縄文海進と地球温暖化」上・中・下〔佐藤〕

4 所蔵資料等の公開・活用事業

- 郷土資料室ミニ展示会『中央図書館所蔵の絵図』展（中央図書館1階ロビー、6月10日～7月18日）
- 郷土資料室ミニ展示会『横須賀生まれの戦艦』展＋図書企画展示『軍艦の本、平和の本』展（中央図書館1階ロビー、8月7日～9月14日）
- デジタルアーカイブ・オンライン企画展『横須賀で生まれた軍艦（戦艦編）』（横須賀市立図書館ホームページ、7月15日～11月28日）



『中央図書館所蔵の絵図』展の様子



『横須賀生まれの戦艦』展の様子

- 図書館ホームページ「デジタルアーカイブ」での資料公開（☆＝令和3年度新規公開）
 - A) 市内の戦前期の絵葉書 126 点
 - B) 絵葉書（横須賀海軍工廠建造の軍艦）49 点（5 件）☆
 - C) 貴重図書 4 点（3 件）
 - D) 写真（ガントリークレーン、EM クラブ）18 点（2 件）☆
 - E) 写真（旧軍関係）54 点（2 件）
 - F) 古文書・古記録 10 点（3 件）☆
 - G) 地図・絵図 13 点（10 件）☆
 - H) 図書館情報紙『いそしぎ』 7 件
 - I) 郷土資料室『緒明山通信』 8 件
 - J) 「三浦一族 Calendar 2022」（NHK 大河ドラマ「鎌倉殿の13人」放送記念）☆



三浦一族カレンダー（表紙）

- ツイッター「横須賀なつかし写真館」
⇒ 横須賀市立図書館@yokosukalib
ツイート数 65 件 公開画像数 180 点

5 寄贈資料

(寄贈者、敬称略)

- (1) 昭和 10 年発行『定家』 1 点 市内・個人匿名
- (2) 昭和 10～15 年の大滝町・若松町周辺地図 1 点
鎌倉市・個人匿名
- (3) 昭和 2 年特別大演習観艦式記念掛軸等 2 点
市内：徳田康之
- (4) 昭和 3 年御大礼特別大観艦式絵葉書等 9 点
大和市・山下光治
- (5) 大村肇氏旧蔵写真 (デジタルデータ) 488 点
北海道・Harry Shibata
- (6) 横須賀海軍工廠職工手帳、尋常小学校卒業アルバム、位記他 6 点 逗子市・若月昌子
- (7) 軍艦大鯨・三笠絵葉書等 (デジタルデータ) 4 点
市内・関口太郎
- (8) 初等科終身教科書等 3 点 市内・安藤常雄
- (9) 卒業証書等 11 点 市内・個人匿名
- (10) 昭和 20～40 年代の市内の写真 (複製) 10 点
横浜市・高橋揚一
- (11) 平瀬親栄氏旧蔵海軍予備学生所感集等 10 点
さいたま市・満尾哲也
- (12) 田川誠一家文書 897 点 市内・岡本伸子
- (13) 明治憲法起草地記念碑除幕式の写真 1 点
市内・冬木幸子
- (14) 猪本昌孝家文書 市内・個人匿名
- (15) 庁内各部局等移管・寄贈資料

- A) 市内商業関連フィルム・写真一式 (商業振興課)
- B) 市制 100 周年記念事業関連書類及び映像フィルム一式 (企画調整課)
- C) 地域文化振興懇話会撮影写真一式 (文化振興課)
- D) 北下浦村役場関係書類 25 冊・北下浦村役場新築記念木札 1 点・8 ミリビデオテープ 12 点 (北下浦行政センター)
- E) 中央公園平和モニュメント写真応募作品 16 点 (国際交流・基地対策課)

6 図書寄贈者・団体等一覧 (五十音順、敬称略)

秋田県公文書館 厚木市文化財保護課
安祥文化のさと地域運営共同体
市川市文化施設課 市立市川歴史博物館
大磯町 大牟田市市史編さん室
小田原市立中央図書館地域資料コーナー
神奈川県立公文書館 神奈川県立図書館
神奈川大学日本常民文化研究所
鎌倉市中央図書館近代史資料担当
鎌倉文学館 木更津市教育委員会
佐倉市市史編さん担当 寒川文書館
世田谷区政策企画課区史編さん
世田谷区立郷土資料館 仙台市博物館
茅ヶ崎市市史編さん担当 茅ヶ崎市文化生涯学習部
知坂 元 株式会社デコ
豊田市市史編さん室 長野市公文書館
新居浜市市史編さん室 日本大学広報課

葉山町郷土史研究会 常陸大宮市教育委員会
福岡市博物館市史編さん室
藤沢市文書館 富士市立博物館
府中市市史編さん担当 町田市立自由民権資料館
三浦半島の文化を考える会
村上勝彦 村野克明
湯河原町町史編さん係 横浜開港資料館
横浜市歴史博物館 16 ミリ試写室

6 刊行物

緒明山通信 第 7 号 令和 3 年 5 月 15 日
緒明山通信 第 8 号 令和 3 年 6 月 10 日

7 事務執行体制の変更

	(令和 3 年度)	(令和 4 年度)
教育長	新倉 聡	新倉 聡
教育総務部長	佐々木暢行	古谷久乃
中央図書館長	山口正樹	山口正樹
図書サービス係長	深水賢一	深水賢一
《郷土資料室》		
主任	谷合伸介	谷合伸介
再任用職員	佐藤明生	
会計年度任用職員		佐藤明生
会計年度任用職員	宮城 睦	宮城 睦
会計年度任用職員	藤川杏奈 (～10.20)	
会計年度任用職員	堀井由貴子	堀井由貴子
	(2022.1.1～)	

あとがき

緒明山通信第 9 号をお届けします。今号では、資料紹介：「海軍予備学生所感集」について、「地誌と地方文書」を読み解く郷土史の学び方、昨年度の事業概要を掲載しました。

また、毎年多くの機関や個人等から図書を寄贈していただいております。この場を借りて感謝申し上げます。そこで、昨年度の寄贈図書の一部を紹介いたします。知坂元氏からの寄贈図書は、横須賀海軍航空隊での零戦訓練経験のある三上一禧氏の自伝をもとにした知坂元著『奇跡のパイロット』です。村野克明氏からの寄贈図書は、本誌 3 号でも取り上げた横須賀海軍病院での空爆体験を語った村野宏子氏の「友に代わりて青空を見る」を含む村野克明編『生きる一廉子・宏子文集一』です。どちらも図書館で閲覧できます。

改訂理由 資料紹介中、平瀬教官の九州転任先を、前任が商船学校の教官であったこと、鹿児島出身で体調を崩されていたことから「鹿児島商船学校か」と憶測したが、国立公文書館アジア歴史資料センターの「秘海軍辭令公報 甲 第 1683 號」の閲覧により大分県の佐伯防備隊であることを知り得たための訂正 (その他の誤字訂正も併せて行った)。

図書館 HP「デジタルアーカイブ」のご案内

横須賀市立図書館ホームページでは、「デジタルアーカイブ」のページを開設しています。戦前の絵葉書や写真等の郷土資料のほか、『緒明山通信』(旧『横須賀市市史資料室通信』)のバックナンバーもご覧いただけます。

下に記した URL か右側の二次元コードからアクセスしてください。

<https://www.yokosuka-lib.jp/contents/archive/>

